

燕 務 一 般

職 員 の 職 氏 名

(昭和36年度)

場 長 西田 稔
 庶務部長 福満豊次 主事 石川泰広(36,7転出) 主事 田平清次(36,7転入)
 主事補 野村敏雄 主事補 松田正信 主事補 西郷さよ
 主事補 竹下敦子(36,4転入)
 漁業部長 上野 茂 主任研究員 塩田正人 技師 竹下克一 技師 永浜 猛
 技師 志摩彦之丞 技師 岩倉 栄 技師 川上市正
 技師補 肥後道隆 特臨 坂元節子
 養殖部長 豊田茂樹 技師 瀬戸口勇 技師 新村 巖 技師補 小松光男(36,7転出)
 技師補 東 邦彦(36,4新採)
 製造部長 白石良雄(36,7退職) 谷元啓佑(36,7転入) 技師 藤田 薫
 技師 西清 晴(36,7転出) 技師 下窪 諭(36,7転入)
 技師補 木下耕之進
 調査部長 別府義輝(36,7転出) 畠山国雄(36,7転入) 技師 九万田一巳
 技師 宮田幸蔵 技師補 上田忠男 技師補 荒牧孝行(36,4新採)
 特臨 深見晴代
 照南丸 (船長)
 船舶技師 後勇英雄 船舶技師 成尾隼人 船舶技師 白石与藤雄
 技師補 川原 力 技師補 口高 照 船舶手 藤井美吉
 船舶手 瀬下 実 船舶手 峠坂清一郎 船舶手 中尾 嶋
 船舶手 石場 護 船舶手 吉原 昇 船舶手 山口義治
 船舶手 是枝武盛 臨時 岩田辰二 臨時 杓頼満次
 船舶技師 大竹 清 船舶技師補 坂元為雄
 かもめ (船長)
 船舶技師 杜山光二 船舶技師 中尾喜内 技師補 帳地純隆
 技師補 中村雪夫 船舶手 峠坂清志 船舶手 上村 勲
 船舶手 田中盛隆 船舶手 南新清志 船舶技師 崎向 正
 大島分場 分場長 谷元啓佑(36,7転出) 前田耕作(36,7転入) 主事 永田情嗣
 主事補 尾崎米男 主事補 菊地敏子(37.3転出) 技師 岩元浅雄
 技師 岩元浅雄 技師 山口昭宜 技師 徳留陽一郎 技師 弟子丸修
 技師補 実島可夫 技師補 椎原久幸(36,7新採) 技師 下窪諭(36,7転出)
 大口養魚場 (36,4開設)
 場長 水流 実 技師補 小山鉄雄 特臨 池田正徳 特臨 児島史郎
 特臨 竹下一正 特臨 吉村和恵

九万田一巳
 宮田幸蔵
 上田忠男

隆
 忠
 徳
 技師補

(場長は本場養殖部から転出他は全部新採)

水産試験場の組織機構

部 別	職 務 別 職 員						計
	場長	部 長	事務職員	技術職員	技術労務者	臨時職員	
本 場	1						1
庶務部		1	5				6
漁業部		1		7	23	5	36
養殖部		1		4			5
製造部		1		3			4
調査部		1		5		1	7
大島分場		1	3	7			11
大口養魚場		1		1		4	6
(35.4開設)							
計	1	7	8	27	23	10	76

水産試験場の予算概要

3月追加を含む最終予算(従つて依頼者が経費を直接負担し水試の予算を通らない金額は含まない。)

水産試験場費(養魚場費を含む)	49,961,300円
吏員給,給料,職員手当	26,212,900
旅 費	2,401,500
賃 金	1,697,800
消耗品費	3,155,700
燃料費	2,813,300
修繕料	3,154,900
工事請負費	3,855,200
備品費	2,386,500
保険料	1,196,300
(その他)	3,127,200

他に本庁各目計上予算から令達を受けて使用したもの

旅 費	178,700	消耗品	60,100
其の他	38,200		

昭和 36 年 度
鹿 児 島 県 水 産 試 験 場 事 業 報 告

昭和 37 年 12月 印 刷
昭和 37 年 12月 発 行

発行所 鹿 児 島 県 水 産 試 験 場
鹿 児 島 市 塩 屋 町 1 8 番 地 の 7
電 話 (2) 6415-6416

印刷所 鹿 児 島 孔 版 社
鹿 児 島 市 郡 元 町 6 4 1 番 地
電 話 (4) 1 4 7 3